

令和8年度上半期 スケジュール

七ツ塚遺跡発掘調査現場説明会

令和8年4月25日(土) 13:00～14:00 ※荒天の場合中止
集合場所：多治見市役所駅北庁舎 正面玄関
申込み不要、直接お越しください
新庁舎建設予定地で令和7年11月から行っている発掘調査の現場説明会を行います。

北小木川の草刈

場所：北小木川 期日：令和8年5月17日(日) 9:00～ 雨天の場合は翌週に延期
市天然記念物「北小木のホタル」の住みやすい環境作りのため、北小木川の草刈を実施します。
ボランティアにご協力いただける方を募集しています。詳細は5月号広報、文化財保護センターホームページに随時掲載します。

北小木のホタル生息数調査

場所：北小木川 期日：令和8年6月毎週月曜日・木曜日 20:00～ 雨天の場合は中止
ゲンジボタルの数を歩きながらカウントするボランティアにご協力いただける方を募集しています。
詳細は5月号広報、文化財保護センターホームページに随時掲載します。

企画展「酒を造る」

令和8年7月21日(火)～12月18日(金)
開館時間：9:00～17:00 (最終入館 16:30) 土曜日・日曜日・祝日は休館

多治見周辺エリアで江戸時代から現代までつづく酒造について、酒蔵・杜氏への取材・聞き取りと酒造関連の文書資料を中心に紹介。職人の出稼ぎ雇用や酒蔵の風習・信仰、職人たちが発する酒造にまつわる言語など民俗文化としての酒造りをクローズアップするほか、木製桶等の伝統的酒造に関連する道具等を展示。酒造技術と工程、発酵の美しさを紹介します。



麹室で作業をする杜氏と蔵人(中島醸造株式会社)

ワークショップ「お酒のかおりとてざわり」

令和8年8月22日(土) 10:00～11:30
講師：中島修正(中島醸造株式会社 取締役) 会場：多治見市文化財保護センター展示室
参加費：無料
対象：親子(中学生までの子供と親)
※開催時間、申込み等詳細は文化財保護センターホームページに随時掲載します。

自然と人の文化

No.67 2026年3月発行
編集・発行 多治見市文化財保護センター
発行部数：1,300部
この冊子は環境に配慮した紙・インクを使用しています。



多治見市文化財保護センター

〒507-0071 岐阜県多治見市旭ヶ丘10-6-26
TEL (0572) 25-8633 FAX (0572) 24-5033
E-mail hogo-cen@city.tajimi.lg.jp
開館時間：9:00～17:00 (最終入館 16:30)
休館日 土曜日・日曜日・祝日・年末年始
入館料 無料
<https://www.city.tajimi.lg.jp/bunkazai/>

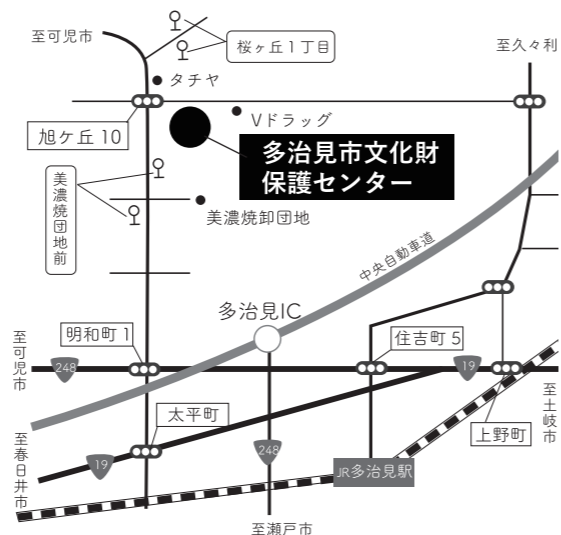
ACCESS

自動車

多治見ICより車で約10分

電車・バス

JR多治見駅北口より東鉄バス(名鉄緑台線・桜ヶ丘ハイツ線または緑ヶ丘線)に乗車「桜ヶ丘1丁目」または「美濃焼団地前」下車・徒歩5分



自然と人の文化

多治見市文化財保護センターだより No.67 2026.3

神仏習合と里山伏



企画展「神仏習合と里山伏」

令和8年2月2日(月) - 6月26日(金)
特別開館6月7日(日)

講演会「神仏習合 長滝白山神社の歴史」

日時 令和8年5月23日(土) 13時30分～15時
講師 若宮多門(長滝白山神社宮司)
場所 多治見市美濃焼ミュージアム(東町1-9-27)
参加費 無料 定員 50名
申込み 4月6日(月)9時から申込み開始
文化財保護センターに電話またはメールにて

陶製

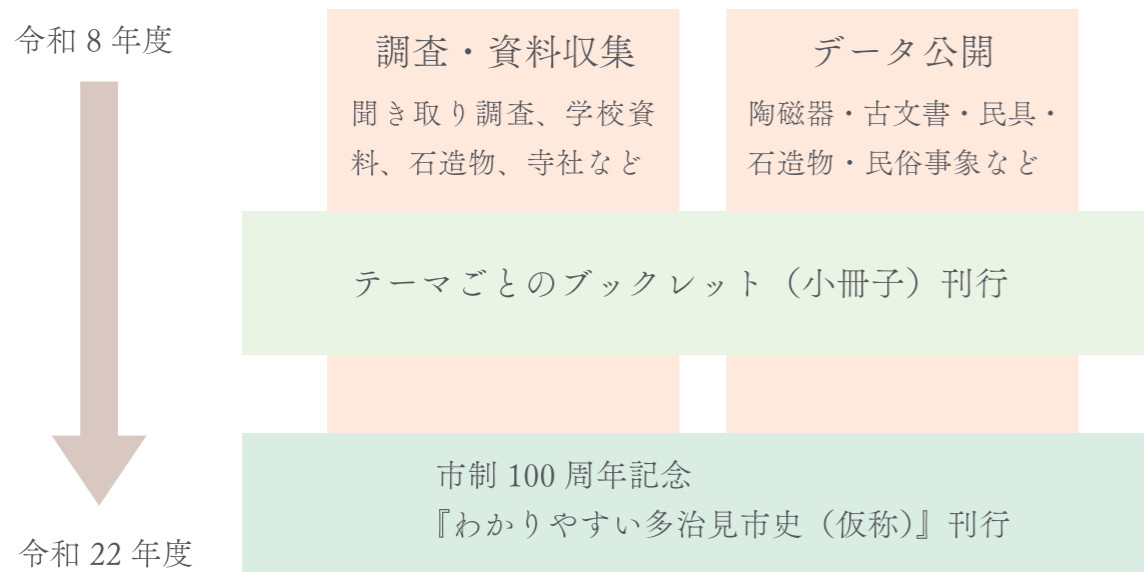
多治見市教育委員会
虎溪山永保寺に
神社の霊獣であ
安置された。底面
とあり高

新しい多治見市史編さん事業がはじまります

昭和 62 年の『多治見市史』刊行以来、市を取り巻く環境が大きく変化し、平成 18 年の笠原町との合併以後の現代史も時間の経過とともに失われることが懸念されています。そのため、貴重な地域資料や人々の記憶などを収集・保存することが急務となっています。また、既存市史刊行後に新たに多くの考古学・歴史資料が発見され、より詳細に地域の歴史が分かるようになってきました。そのような中でこれまでの研究成果を踏まえた新たな市史を編さんすることが必要となっています。

新しい多治見市史編さん事業は令和 8 年度からはじまり、令和 22 年度の多治見市制 100 周年に向けて未調査資料を調査・収集し、これまでの調査資料とともに広く公開します。それにより地域資料を貴重な文化的遺産として継承し、活用を図ることを第一の目的とします。

さらに、市民にとって親しみやすく活用しやすい内容・体裁で古代～現代の歴史をテーマごとに編さんします。地域への関心や愛着を深め、歴史や文化を未来へ伝える地盤をつくることを目的とします。これまで受け継いできた歴史・文化を、100 年後の多治見市に伝えることができる様に調査・収集・編さんを通じて人材を育み、資料の保存・活用体制を整えます。



寄付資料「甄舎」銘 陶磁器

令和 7 年度も市民の方々から多くの資料寄付がありました。その中から「甄舎（けんしゃ）」銘のある陶磁器についてご紹介します。

「甄舎」は、現在の多治見工業高校で明治から昭和時代にかけて造られた陶磁器の裏に印された銘で、工業高校の教員や生徒が制作したものと知られています。当時の卓越した技術を駆使して造られた陶磁器は、美濃焼の近代史を映す資料としても価値が高いものです。



「甄舎」銘染付花瓶

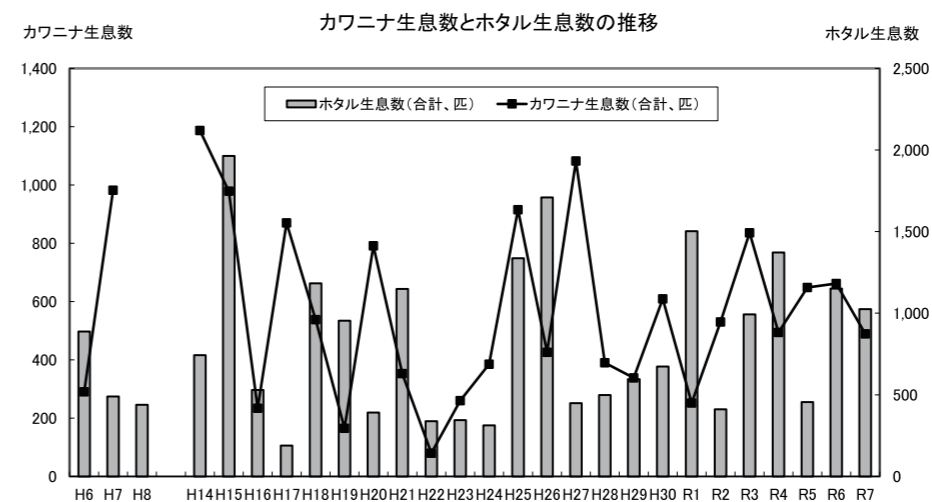
カワニナ生息数調査

市天然記念物「北小木のホタル」調査の一環として、ゲンジボタルの幼虫の餌であるカワニナ（巻貝の一種）の生息数調査を毎年行っています。今年度は令和 7 年 11 月 5 日に行いました。

一般参加のボランティアを含む 12 名の調査者を北小木川の上流、下流、北小木川の支流である神明洞川の 3 班にわけ全 14 地点で調査をしました。調査地点付近でカワニナが多くいる調査ポイントを選び、50 cm 角のアルミ製の枠を川底に設置し、枠内のカワニナをバットにすくい上げ（手探りや水メガネを使用して採集）、個数、各個体の長さを計測し、調査後は放流します。今年度のカワニナ生息数の合計は昨年より 3 割少ない 489 匹でした。北小木川上流域で多く確認できましたが、カワニナの全体の生息数が微減であったことにより、今年のホタルの発生が少し減少する可能性も考えられます。調査にご参加いただきました皆様、ご協力ありがとうございました。



調査地点で 50 cm 角のアルミフレームを設置



枠内の川砂、石などをバットにすくい上げ、カワニナを探します

しめ縄ワークショップ開催しました

令和 7 年 12 月に、企画展「めぐる植物のかたち」の関連イベントとして、ワークショップ「しめ縄をつくろう！」を開催しました。当日は、5 歳のお子様から大人の方まで、約 20 名に参加いただきました。稲わらを叩く下ごしらえの作業からスタートし、1 時間ほどかけて「縄ない」の技術を学びました。信仰の場に古くから残る「しめなわ」の文化は、稲わらの入手が難しいことや縛る技術を持つ人が減ってきているのが地域の実情ですが、ワークショップを通して、稲わらに触れる手の感覚を楽しんでもらうことができました。



稲わらを木槌でたたくと柔らかくなり、作業しやすくなります



ふたりで力を合わせてしめ縄をなっています